

カトリック香里教会 復活の主日 2021年4月4日

安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」
-マルコ 16章-

私たちの信仰の基盤

クリスマスの日が教会で最も楽しいごちそうであるならば、復活の主日はすべての中で最も輝かしいごちそうです。復活の福音のクライマックスとそれが私たちに与える影響の本質は、「彼は見て信じた」という言葉にあります。復活したキリストを信じるのが福音全体の目的であり要点です。「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであるとしんじるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである」（ヨハネ 20:31）。もちろん、弟子たちは最初はイエスに何が起こったのか本当に理解できませんでしたが、すぐにイエスが死からよみがえると予告していたことを思い出しました。

復活への信仰は、私たちの信仰のまさに基盤であり、それが築かれる石です。この単一の真実に基づいて、教会の信仰を構成する他の教義が構築されます。他のすべてが流れ出るのは復活からです。私たちの聖体への信仰、聖徒の役割の私たちの理解、そして天国の永遠の命への私たちの信仰。教会への信仰や秘跡の力など、私たちの宗教のこれらのルーツから流れる他の多くの教義があります。

福音書は、マリアが暗闇の中で墓のそばに立っていることを告げています。彼女の気分は同じ暗闇を反映しているようです。彼女の希望は死んでいる。彼女の未来はなくなりました。私たちが愛する人が亡くなったときに行う自然なことは、最初に悲しみ、次にあなたができる限り最善の人生を続けようとすることです。しかし、復活祭は私たちに別の話をします。私たちは復活祭に集まり、不自然なことが起こったと信じています。

イエスは復活によって、人生はまったく無意味ではないことを私たちに示しています。苦しんだ後も、まだ幸せがあります。死後もまだ、生命があります。夜が明けた後、太陽が再び昇るので、私たちの人生がどんなに大変であっても、神への希望を決して失わないようにしましょう。

2021年4月3日7時のミサ

クラレチアン宣教会助祭 パウロ・ニュー・イ

